

## 会 議 概 要

会議の名称	第3次社会教育中期計画策定に係る第3回第1部会（基盤整備・少年教育・青年教育）会議
開催日時	令和4年10月12日（水） 18時30分 開会 20時30分 閉会
開催場所	文化センターさざ波 2階団体研修室
出席者名	平野委員、工藤委員、鈴木委員、杉原委員、高野委員 5名 オブザーバー～深谷委員長 教委～坂本課長、渡辺主査
欠席者名	なし
傍聴人の数	なし
会議の内容	1. 開 会 2. 議 事 議案第1号 基盤整備・少年教育・青年教育における現状と課題について 3. 閉 会
会議資料	第3次社会教育中期計画策定に係る第3回第1部会（基盤整備・少年教育・青年教育）会議議案
会議録	<input checked="" type="checkbox"/> 有 （ <input type="checkbox"/> 全文筆記 <input checked="" type="checkbox"/> 要点筆記 ） <input type="checkbox"/> 無
備考	

# てん末書

## 1 日 時

令和4年10月12日(水) 18時30分～20時30分

## 2 会 場

文化センターさざ波 2階団体研修室

## 3 会議及び用務

第3次社会教育中期計画策定に係る第3回 第1部会（基盤整備・少年教育・青年教育）会議

## 4 出席者

部会担当委員～平野、工藤、鈴木、杉原、高野各委員 5名（欠席なし）

オブザーバー～深谷委員長

教委～坂本課長、渡辺主査

## 5 結果要旨

1. 開 会
2. 深谷委員長あいさつ
2. 平野部会長あいさつ
2. 議 事

○議案第1号 基盤整備・少年教育・青年教育における現状と課題について ～会議結果反映後の文章は別添のとおり

### 【青年教育に係る主な意見】

○現状と課題について

- ・少年教育でも出てきたが、価値と時間、情報の概念が変わってきている。
- ・情報を得るための手段が多様化しているが、情報＝学習ではない。学び方がわかっていない若者が多い。
- ・他者との関りが少なく、個が細かく分かれている。

- ・外出しなくてもオンラインで集合することができる時代だが、オンラインでは全く知らない人との関わりはない。
- ・学ぶ場所、学び方もオンラインなど今の時代にあった方策にしないと。
- ・話を聞かせて説明しても興味を引くことは難しいが、やってみたら面白かったという感覚は今も昔も変わっていない。

○課題解決のための方策について

- ・青年教育として事業を実施しようとしてもそもそも講演や学習につながるようなものには参加しない。まずは入口として交流を促し、その後、学びにつなげる。
- ・個々に交流を促すのは難しい、漁協、農協、商工会青年部、湧青協、教職員など既存の組織を活用し、異業種間の交流を図る。スポーツ大会や産業まつりなどイベントを合同で実施するなどはどうか。

○その他 次回の部会は 11/17 (木)

文化センターさざ波 2階団体研修室 18時30分～

### 第 3 次湧別町社会教育中期計画 現状と課題（青年教育）検討資料

第 2 次社会教育中期計画	第 3 次社会教育中期計画	備 考
<p style="text-align: center;"><b>第 3 節 青年教育の現状と課題・推進目標・推進項目</b></p> <p>【青年教育の現状と課題】  <del>成人式</del>の「20歳の主張」において活躍を誓う姿が象徴するように、青年は地域のリーダーとして大切な役割を担っています。</p> <p>近年、ボランティア等の社会貢献活動への参加意識は高まっていますが、依然として参加を敬遠する青年がいるのも事実です。実際に参加してみないとその面白さや充実感を味わうことや、経験を得ることが出来ません。社会教育の分野に限らず若い力が必要な場面はたくさんあり、個人で参加できる町民大学や成人文化教室など様々な学習を得る機会があるので、青年の事業参加についてもアプローチするとともに、参加を促すために青年の意見を取り入れ、若い力を活用していくことが町の発展に繋がると考えられます。</p> <p>また、関係団体の連携については農協や漁協、商工会には青年部があり、それぞれ活動している現状であるため、職業間を越えた仲間作りが出来れば、新しい発想や事業に発展する可能性があります。</p> <p>現在の取り組みについては、青年団体協議会に対し、活動場所として青年会館の提供や、青年団員拡大や主催事業の広報活動等、地元の青年が活躍できる地域に根ざした活動の支援を行っております。</p> <p>これらの青年組織と連携を図りながら、同じ地域に住む様々な職業・立場を生きる青年が交流できる機会の提供が求められています。</p> <p>&lt;今後の課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 青年同士の仲間づくりや集う場の提供が必要です。</li> <li>○ 活動機会が少ないことから、青年が活躍する機会の提供が必要です。</li> <li>○ 青年が気軽に意見を言える機会を設け、活動に積極的に関わる人材の発掘・育成が必要です。</li> </ul>	<p style="text-align: center;"><b>第 3 節 青年教育の現状と課題・推進目標・推進項目</b></p> <p>【青年教育の現状と課題】  <del>20歳の集いの「20歳の主張」において活躍を誓う姿が象徴するように、</del>青年は、将来地域のリーダーとしてまちづくりに活力を与えるなど、大切な役割が期待されています。</p> <p>しかし、若者人口の減少に加えて、仕事や子育てなど個人が抱える生活課題が多様化、複雑化するなかで、<del>地域活動やボランティア活動に積極的に参画することが難しい</del>青年も増えています。</p> <p>さらに、情報通信技術や SNS の進展によって、特に若者は多くの情報や知りたい知識を容易に得ることができるようになったとともに、場所を選ばずに他者とコミュニケーションをとることが可能になりましたが、それによって人や社会との関わり方の意識が変化してきています。</p> <p><del>近年、ボランティア等の社会貢献活動への参加意識は高まっていますが、依然として参加を敬遠する青年がいるのも事実です。実際に参加してみないとその面白さや充実感を味わうことや、経験を得ることが出来ません。社会教育の分野に限らず若い力が必要な場面はたくさんあり、</del></p> <p>個人で参加できる町民大学やカルチャー教室など様々な学習を得る機会があるので、青年の事業参加についても多角的にアプローチするとともに、参加を促すために青年の意見を取り入れ、若い力を活用していくことが町の発展に繋がると考えられます。</p> <p>また、<del>関係団体の連携については農協や漁協、商工会には青年部があり、それぞれ活動している現状であるため、</del>既存団体に加えて異業種の若者が地域行事やイベントなどを通して活発につながることで職業間を越えた仲間作りができれば、新しい発想や事業に発展する可能性があります。</p> <p><del>現在の取り組みについては、</del>青年団体協議会に対しては、活動場所として青年会館の提供や、青年団員拡大や主催事業の広報活動等、地元の青年が活躍できる地域に根ざした活動の支援を行っています。これらの青年組織と連携を図りながら、同じ地域に住む様々な職業・立場を生きる青年が交流できる機会の提供が求められています。</p> <p>&lt;今後の課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 青年のニーズにあった学習機会の提供が必要です。</li> <li>○ <del>活動機会が少ないことから、</del>青年が地域社会で活躍する機会の提供が必要です。</li> <li>○ 青年同士が交流する機会の提供が必要です。</li> <li>○ <del>青年が気軽に意見を言える機会を設け、</del>活動に積極的に関わる人材の発掘・育成が必要です。</li> </ul>	

第2次社会教育中期計画

(推進目標と推進項目)

青年教育  
推進目標

青年は町の原動力 自らを磨き高めよう

項 目		課題解決のための方策
人、自然、ふるさとから学び、地域と共生する	学習機会の提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>●各種研修会等の情報を提供し参加を奨励する。</li> <li>●成人式を開催し、新成人の社会人としての意識の高揚を図る。</li> <li>●高校生の社会参加活動を奨励・支援する。</li> </ul>
	活動等の支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>●青年団体協議会が行う自主活動を応援し、広く周知に努める。</li> </ul>
	学習環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>●各青年組織のリーダーが集い、学習する機会と組織化を支援（まちづくり青年会議の創設）。</li> <li>●若い女性の社会参加を図る。</li> <li>●団体リーダーの養成と活用を図る。</li> <li>●地域活動への参加に向けて意見交換の機会をつくる。</li> </ul>
	連携・ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> <li>●各青年組織の交流を奨励し、連携・ネットワーク化を促進する。</li> </ul>

第3次社会教育中期計画

(推進目標と推進項目)

青年教育  
推進目標

青年は町の原動力 自らを磨き高めよう

項 目		課題解決のための方策
人、自然、ふるさとから学び、地域と共生する	学習機会の提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>●若者世代の生活課題の解決につながるような学習機会を提供する。</li> <li>●20歳の集いを開催し、新成人の社会人としての意識の高揚を図る。</li> <li>●高校生の社会参加活動を奨励・支援する。</li> </ul>
	活動等の支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>●青年団体協議会が行う自主活動を応援し、広く周知に努める。</li> </ul>
	学習環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>●各青年組織のリーダーが集い、学習する機会と組織化を支援（まちづくり青年会議の創設）。</li> <li>●若い女性の社会参加を図る。</li> <li>●団体リーダーの養成と活用を図る。</li> <li>●地域活動への参加に向けて、青年が活躍できる場を提供する。</li> </ul>
	連携・ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> <li>●各青年組織や異業種青年同士の交流を奨励し、連携・ネットワーク化を促進する。</li> </ul>

備 考

## 令和4年度

### 令和4年度 第3次社会教育中期計画策定に係る第3回 第1部会(基盤整備・少年教育・青年教育)会議

と き 令和4年10月12日(水)  
午後6時30分

ところ 文化センターさざ波 2階団体研修室

#### <会議日程>

1. 部会長あいさつ ・ 開会

2. 議 事

議案第1号 基盤整備・少年教育・青年教育における現状と課題について

その他

3. 部会長あいさつ ・ 閉会

湧別町教育委員会

### 第 3 次湧別町社会教育中期計画 現状と課題（基盤整備）検討資料

第 2 次社会教育中期計画	第 3 次社会教育中期計画	備 考
<p style="text-align: center;"><b>第 10 節 生涯学習の基盤整備と社会教育施設整備の 現状と課題・推進目標・推進項目</b></p> <p>【生涯学習の基盤整備と社会教育施設整備の現状と課題】 生涯にわたってあらゆる機会や場所において、様々な学習活動がより効果的になるよう各関係機関・団体との連携強化に努めてきました。</p> <p>また、地域の施設を拠点とし、地域ぐるみで生涯学習を推進するサークル等が自主的に学習活動を行うための支援、生涯学習情報誌の発行や相談体制の充実を図ってきました。</p> <p>現在、生涯学習施設として、文化センター（2施設）、ふるさと館 J R Y、郷土館、図書館（2施設）、総合体育館（2施設）、野球場（2施設）、ゲートボール場（2施設）、パークゴルフ場、スキー場などの施設があり、多くの町民に利用されています。</p> <p>しかし、昭和 50 年代から 60 年代にかけて建設された施設については、老朽化が進み、改修工事や修繕を必要とする施設が多く、計画的に改修工事等を図っていますが、まだ整備が必要な施設があります。</p> <p>施設の維持管理については、民間の能力を活用しつつ、住民サービスの向上や経費の削減を図ることを目的に指定管理者制度（ふるさと館 J R Y、図書館を除く）を導入し、利用者の視点に立った施設の整備充実を図るため、指定管理者と協議しながら、サービスの向上に努めてきました。</p> <p>また、町内全ての公共施設等における将来の基本的な管理方針を定める「公共施設等総合管理計画」が平成 29 年 3 月に<u>策定されたことから、施設の統廃合も含めた具体的な実行スケジュールが提示されました。</u>この計画を踏まえ、今後も町民が生涯にわたって、日常生活の中で目的に応じて気軽に施設の利用ができるよう、施設の適正な維持管理や整備の充実に努めます。</p> <p>&lt;今後の課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各関係機関・団体との相互の連携・協力を図る必要があります。</li> <li>○ 生涯学習情報の収集・提供、相談体制の充実に努める必要があります。</li> <li>○ 住民の自主活動に対する支援体制の整備が必要です。</li> <li>○ 必要に応じ施設の改修等に努める必要があります。</li> </ul>	<p style="text-align: center;"><b>第 10 節 生涯学習の基盤整備と社会教育施設整備の 現状と課題・推進目標・推進項目</b></p> <p>【生涯学習の基盤整備と社会教育施設整備の現状と課題】 生涯にわたってあらゆる機会や場所において、様々な学習活動がより効果的になるよう各関係機関・団体との連携強化に努めてきました。</p> <p>また、地域の施設を拠点とし、地域ぐるみで生涯学習を推進するサークル等が自主的に学習活動を行うための支援、生涯学習情報誌の発行や相談体制の充実を図ってきました。</p> <p>現在、生涯学習施設として、文化センター（2施設）、ふるさと館 J R Y、郷土館、図書館（2施設）、総合体育館（2施設）、野球場（2施設）、ゲートボール場（2施設）、パークゴルフ場、スキー場などの施設があり、多くの町民に利用されています。</p> <p>しかし、昭和 50 年代から 60 年代にかけて建設された施設については、老朽化が進み、改修工事や修繕を必要とする施設が多く、計画的に改修工事等を図っていますが、まだ整備が必要な施設があります。</p> <p>施設の維持管理については、民間の能力を活用しつつ、住民サービスの向上や経費の削減を図ることを目的に指定管理者制度（ふるさと館 J R Y、図書館を除く）を導入し、利用者の視点に立った施設の整備充実を図るため、指定管理者と協議しながら、サービスの向上に努めてきました。</p> <p>また、町内全ての公共施設等における将来の基本的な管理方針を定める「公共施設等総合管理計画」が平成 29 年 3 月に<u>策定されており、</u>施設の統廃合も含めた具体的な実行スケジュールが<u>提示されています。</u>この計画を踏まえ、今後も町民が生涯にわたって、日常生活の中で目的に応じて気軽に施設の利用ができるよう、施設の適正な維持管理や整備の充実に努めます。</p> <p>&lt;今後の課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各関係機関・団体との相互の連携・協力を図る必要があります。</li> <li>○ 生涯学習情報の収集・提供、相談体制の充実に努める必要があります。</li> <li>○ 住民の自主活動に対する支援体制の整備が必要です。</li> <li>○ 必要に応じ施設の改修等に努める必要があります。</li> </ul>	

第2次社会教育中期計画

(推進目標と推進項目)

生涯学習の基盤整備推進目標

生涯学習の基盤整備は社会教育のかなめ いつでも、どこでも、だれでも参加し楽しもう

項 目		課題解決のための方策
人、自然、ふるさとから学び、地域と共生する	体制整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>●住民の様々な学習活動がより効果的になるよう関係機関や団体との連携強化に努めます。</li> <li>●総合的に生涯学習を推進するための体制整備に努めます。</li> </ul>
	施設整備・活用・連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>●住民のニーズを踏まえながら、利用しやすい施設の整備・機能充実や効果的な管理運営に努めます。</li> <li>●施設間の連携やネットワーク化により、学習サービスの向上に努めます。</li> </ul>
	学習情報の収集提供・相談体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>●住民の学習活動を支援するため、生涯学習情報の収集・提供に努めます。</li> <li>●多様化する学習ニーズに応じ、住民の学習活動が円滑に行われるよう相談体制の充実に努めます。</li> </ul>
	指導者の養成・活用・団体活動支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>●住民の多種多様な学習ニーズに対応するため、様々な分野から指導者を発掘、養成し、人材の活用に努めます。</li> <li>●生涯学習振興奨励事業補助金活用により、サークル等が自主的に学習活動を行う支援に努めます。</li> <li>●ボランティアを育成するとともに、活動の支援に努めます。</li> </ul>
	連携・ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> <li>●社会教育委員、スポーツ推進委員、図書館協議会委員、各団体、町各部局、地域、学校との連携強化とネットワーク化を図り、生涯学習活動の推進に努めます。</li> <li>●生涯学習に関する情報を収集、データベース化し、ガイドブック等の発行を検討します。</li> </ul>

第3次社会教育中期計画

(推進目標と推進項目)

生涯学習の基盤整備推進目標

生涯学習の基盤整備は社会教育のかなめ いつでも、どこでも、だれでも参加し楽しもう

項 目		課題解決のための方策
人、自然、ふるさとから学び、地域と共生する	体制整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>●住民の様々な学習活動がより効果的になるよう関係機関や団体との連携強化に努めます。</li> <li>●総合的に生涯学習を推進するための体制整備に努めます。</li> </ul>
	施設整備・活用・連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>●住民のニーズを踏まえながら、利用しやすい施設の整備・機能充実や効果的な管理運営に努めます。</li> <li>●施設間の連携やネットワーク化により、学習サービスの向上に努めます。</li> </ul>
	学習情報の収集提供・相談体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>●住民の学習活動を支援するため、生涯学習情報の収集・提供に努めます。</li> <li>●多様化する学習ニーズに応じ、住民の学習活動が円滑に行われるよう相談体制の充実に努めます。</li> </ul>
	指導者の養成・活用・団体活動支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>●住民の多種多様な学習ニーズに対応するため、様々な分野から指導者を発掘、養成し、人材の活用に努めます。</li> <li>●生涯学習振興奨励事業補助金活用により、サークル等が自主的に学習活動を行う支援に努めます。</li> <li>●ボランティアを育成するとともに、活動の支援に努めます。</li> </ul>
	連携・ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> <li>●社会教育委員、スポーツ推進委員、図書館協議会委員、各団体、町各部局、地域、学校との連携強化とネットワーク化を図り、生涯学習活動の推進に努めます。</li> <li>●生涯学習に関する情報を収集、データベース化し、ガイドブック等の発行を検討します。</li> </ul>

備 考



### 第3次湧別町社会教育中期計画 現状と課題（少年教育）検討資料

第2次社会教育中期計画（素案）	第3次社会教育中期計画（会議反映後）	備考
<p style="text-align: center;"><b>第2節 少年教育の現状と課題・推進目標・推進項目</b></p> <p>【少年教育の現状と課題】 現在の少年を取り巻く社会、家庭環境は、複雑で多岐にわたっております。 多様化する要因として高度情報化社会があげられます。室内でのゲームやスマートフォン等の長時間利用が進み、友達同士で外に遊びに行く機会は減少しており、顔を合わせたコミュニケーションが希薄になっています。外で遊ぶこと等の体験不足により、ルールやマニュアルどおりにすることは容易に出来ますが、臨機応変の応用力が乏しく、良い悪いの境を判断する能力が非力ゆえに問題となるケースが見受けられます。 また、少年団活動や部活動に加入している子どもは基礎体力や運動能力に比較的優れています。が、日頃運動をしていない子どもは、十分な体力が備わっていなかったり、ボールを投げること、走ること等の基本的な運動能力が低く、体力の2極化が進んでいます。 このように少年教育の課題として、自然体験や異世代間交流、仲間づくり等の様々な体験活動の提供を求められています。しかし、近年子どもたちは、少年団、部活動、塾等で日々忙しいなど、体験や交流・仲間づくり事業を実施しても参加者数が少なく事業が成立しない状況も見られることから、家庭や学校の理解、連携が欠かせない問題であると考えられます。 現在の取り組みとして、青少年指導センターでは中学生と高校生のリーダークラブを組織し、小学校高学年を対象に子ども会リーダーの養成を目的としたリーダー研修会を夏と冬に行っています。また、子ども会対抗の各種スポーツ大会において、<u>既存の単位子ども会のほかに湧別地区子ども会の連合組織「湧別地区サポート協議会」を加えてチーム編成するなど、湧別地区からも参加しやすい工夫をしながら実施しています。</u> しかし、<u>これらは合併前からの継続事業であり、地区ごとの参加者数の偏りが見受けられることから、</u>リーダー・指導者の養成や小学生から高校生・青年までのつながりを視野に入れた事業の再評価や見直しを積極的に進めなければなりません。</p> <p>&lt;今後の課題&gt; ○ 将来において豊かな人間性を育み、コミュニケーション能力を重視し、達成感の中から学ぶ様々な体験活動の提供を行う必要があります。 ○ 次世代を担うリーダー・指導者活動の支援・育成が必要です。 ○ 小学生から高校生・青年まで連携した事業の展開が必要です。 ○ 現在の事業に新たな取り組みの導入及び事業の見直しの検討が必要です。</p>	<p style="text-align: center;"><b>第2節 少年教育の現状と課題・推進目標・推進項目</b></p> <p>【少年教育の現状と課題】 現在の少年を取り巻く社会、家庭環境は、複雑で多岐にわたっております。 多様化する要因として高度情報化社会があげられます。室内でのゲームやスマートフォン等の長時間利用が進み、友達同士で外に遊びに行く機会は減少しており、顔を合わせたコミュニケーションが希薄になっています。外で遊ぶこと等の体験不足により、ルールやマニュアルどおりにすることは容易に出来ますが、臨機応変の応用力が乏しく、良い悪いの境を判断する能力が非力ゆえに問題となるケースが見受けられます。 また、少年団活動や部活動に加入している子どもは基礎体力や運動能力に比較的優れています。が、日頃運動をしていない子どもは、十分な体力が備わっていなかったり、ボールを投げること、走ること等の基本的な運動能力が低く、体力の2極化が進んでいます。 このように少年教育の課題として、自然体験や異世代間交流、仲間づくり等の様々な体験活動の提供を求められています。しかし、近年子どもたちは、少年団、部活動、塾等で日々忙しいなど、体験や交流・仲間づくり事業を実施しても参加者数が少なく事業が成立しない状況も見られることから、家庭や学校の理解、連携が欠かせない問題であると考えられます。 現在の取り組みとして、青少年指導センターでは中学生と高校生のリーダークラブを組織し、小学校高学年を対象に子ども会リーダーの養成を目的としたリーダー研修会を夏と冬に行っています。また、子ども会対抗の各種スポーツ大会を 実施しています。 しかし、<u>前述した事業と同様に指導センターにおける取組みにおいても参加者数が減少しており、</u>リーダー・指導者の養成や小学生から高校生・青年までのつながりや<u>地域同士の連携</u>を視野に入れた事業の再評価や見直しを積極的に進めなければなりません。 <u>さらに今後、部活動の地域移行に関する検討を進め、学校と地域が連携、協働を深めていく必要があり、少年教育の受け皿としての地域団体の重要性が高まっています。</u></p> <p>&lt;今後の課題&gt; ○ 将来において豊かな人間性を育み、コミュニケーション能力を重視し、達成感の中から学ぶ様々な体験活動の提供を行う必要があります。 ○ 次世代を担うリーダー・指導者活動の支援・育成が必要です。 ○ 小学生から高校生・青年・<u>地域</u>まで連携した事業の展開が必要です。 ○ 現在の事業に新たな取り組みの導入及び事業の見直しの検討が必要です。 ○ <u>少年教育の受け皿としての地域団体の支援・育成が必要です。</u></p>	

第2次社会教育中期計画

(推進目標と推進項目)

少年教育  
推進目標

少年は町の未来 夢に向かって力をつけよう

項 目		課題解決のための方策
人、自然、ふるさとから学び、地域と共生する	学習機会の提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域の特性を生かした数多くの体験学習活動の機会を提供し、豊かな人間性の養成を図る。</li> <li>●年に一度は町内の子ども全員が集まる機会を提供し、充実を図る。</li> </ul>
	活動等の支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>●子ども会や青少年指導センターを支援する。</li> <li>●異世代や異年齢との交流機会の拡充により、コミュニケーション能力の向上を図るとともに、地域教育力の向上を図る</li> </ul>
	学習環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>●小学生や中学生のリーダー養成と活用を図る</li> <li>●地域の成人指導者の活用を図る。</li> <li>●小学生～中学生～高校生～青年が連携できるよう、青年層からボランティアを積極的に受け入れ、次世代につながる指導者の養成を図る。</li> </ul>
	連携・ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> <li>●より学習効果が得られるよう学校と社会教育が連携・融合した事業を推進する。</li> <li>●小中学生の学力・体力向上に向けた生活習慣改善の取り組みに協力する。</li> <li>●児童センターをはじめ関係機関との連携を図る。</li> <li>●学校の求めに応じ、コミュニティスクールに社会教育が積極的に参加協力を行う。</li> </ul>

第3次社会教育中期計画

(推進目標と推進項目)

少年教育  
推進目標

少年は町の未来 夢に向かって力をつけよう

項 目		課題解決のための方策
人、自然、ふるさとから学び、地域と共生する	学習機会の提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域の特性を生かした数多くの体験学習活動の機会を提供し、豊かな人間性の養成を図る。</li> <li>●年に一度は町内の子ども全員が集まる機会を提供し、充実を図る。</li> </ul>
	活動等の支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>●子ども会や青少年指導センターを支援する。</li> <li>●異世代や異年齢との交流機会の拡充により、コミュニケーション能力の向上を図るとともに、地域教育力の向上を図る</li> </ul>
	学習環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>●小学生や中学生のリーダー養成と活用を図る</li> <li>●地域の成人指導者の活用を図る。</li> <li>●小学生～中学生～高校生～青年が連携できるよう、青年層からボランティアを積極的に受け入れ、次世代につながる指導者の養成を図る。</li> </ul>
	連携・ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> <li>●より学習効果が得られるよう学校と社会教育が連携・融合した事業を推進する。</li> <li>●小中学生の学力・体力向上に向けた生活習慣改善の取り組みに協力する。</li> <li>●児童センターをはじめ関係機関との連携を図る。</li> <li>●学校の求めに応じ、コミュニティスクールに社会教育が積極的に参加協力を行う。</li> </ul>

備 考

### 第3次湧別町社会教育中期計画 現状と課題（青年教育）検討資料

第2次社会教育中期計画	第3次社会教育中期計画	備考
<p style="text-align: center;"><b>第3節 青年教育の現状と課題・推進目標・推進項目</b></p> <p>【青年教育の現状と課題】  <u>成人式</u>の「20歳の主張」において活躍を誓う姿が象徴するように、青年は地域のリーダーとして大切な役割を担っています。</p> <p>近年、ボランティア等の社会貢献活動への参加意識は高まっていますが、依然として参加を敬遠する青年がいるのも事実です。実際に参加してみないとその面白さや充実感を味わうことや、経験を得ることが出来ません。社会教育の分野に限らず若い力が必要な場面はたくさんあり、個人で参加できる町民大学や成人文化教室など様々な学習を得る機会があるので、青年の事業参加についてもアプローチするとともに、参加を促すために青年の意見を取り入れ、若い力を活用していくことが町の発展に繋がると考えられます。</p> <p>また、関係団体の連携については農協や漁協、商工会には青年部があり、それぞれ活動している現状であるため、職業間を越えた仲間作りが出来れば、新しい発想や事業に発展する可能性があります。</p> <p>現在の取り組みについては、青年団体協議会に対し、活動場所として青年会館の提供や、青年団員拡大や主催事業の広報活動等、地元の青年が活躍できる地域に根ざした活動の支援を行っております。</p> <p>これらの青年組織と連携を図りながら、同じ地域に住む様々な職業・立場を生きる青年が交流できる機会の提供が求められています。</p> <p>&lt;今後の課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 青年同士の仲間づくりや集う場の提供が必要です。</li> <li>○ 活動機会が少ないことから、青年が活躍する機会の提供が必要です。</li> <li>○ 青年が気軽に意見を言える機会を設け、活動に積極的に関わる人材の発掘・育成が必要です。</li> </ul>	<p style="text-align: center;"><b>第3節 青年教育の現状と課題・推進目標・推進項目</b></p> <p>【青年教育の現状と課題】  <u>20歳の集い</u>の「20歳の主張」において活躍を誓う姿が象徴するように、青年は地域のリーダーとして大切な役割を担っています。</p> <p>近年、ボランティア等の社会貢献活動への参加意識は高まっていますが、依然として参加を敬遠する青年がいるのも事実です。実際に参加してみないとその面白さや充実感を味わうことや、経験を得ることが出来ません。社会教育の分野に限らず若い力が必要な場面はたくさんあり、個人で参加できる町民大学や成人文化教室など様々な学習を得る機会があるので、青年の事業参加についてもアプローチするとともに、参加を促すために青年の意見を取り入れ、若い力を活用していくことが町の発展に繋がると考えられます。</p> <p>また、関係団体の連携については農協や漁協、商工会には青年部があり、それぞれ活動している現状であるため、職業間を越えた仲間作りが出来れば、新しい発想や事業に発展する可能性があります。</p> <p>現在の取り組みについては、青年団体協議会に対し、活動場所として青年会館の提供や、青年団員拡大や主催事業の広報活動等、地元の青年が活躍できる地域に根ざした活動の支援を行っております。</p> <p>これらの青年組織と連携を図りながら、同じ地域に住む様々な職業・立場を生きる青年が交流できる機会の提供が求められています。</p> <p>&lt;今後の課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 青年同士の仲間づくりや集う場の提供が必要です。</li> <li>○ 活動機会が少ないことから、青年が活躍する機会の提供が必要です。</li> <li>○ 青年が気軽に意見を言える機会を設け、活動に積極的に関わる人材の発掘・育成が必要です。</li> </ul>	

第2次社会教育中期計画

(推進目標と推進項目)

青年教育  
推進目標

青年は町の原動力 自らを磨き高めよう

項 目		課題解決のための方策
人、自然、ふるさとから学び、地域と共生する	学習機会の提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>●各種研修会等の情報を提供し参加を奨励する。</li> <li>●成人式を開催し、新成人の社会人としての意識の高揚を図る。</li> <li>●高校生の社会参加活動を奨励・支援する。</li> </ul>
	活動等の支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>●青年団体協議会が行う自主活動を応援し、広く周知に努める。</li> </ul>
	学習環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>●各青年組織のリーダーが集い、学習する機会と組織化を支援（まちづくり青年会議の創設）。</li> <li>●若い女性の社会参加を図る。</li> <li>●団体リーダーの養成と活用を図る。</li> <li>●地域活動への参加に向けて意見交換の機会をつくる。</li> </ul>
	連携・ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> <li>●各青年組織の交流を奨励し、連携・ネットワーク化を促進する。</li> </ul>

第3次社会教育中期計画

(推進目標と推進項目)

青年教育  
推進目標

青年は町の原動力 自らを磨き高めよう

項 目		課題解決のための方策
人、自然、ふるさとから学び、地域と共生する	学習機会の提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>●各種研修会等の情報を提供し参加を奨励する。</li> <li>●成人式を開催し、新成人の社会人としての意識の高揚を図る。</li> <li>●高校生の社会参加活動を奨励・支援する。</li> </ul>
	活動等の支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>●青年団体協議会が行う自主活動を応援し、広く周知に努める。</li> </ul>
	学習環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>●各青年組織のリーダーが集い、学習する機会と組織化を支援（まちづくり青年会議の創設）。</li> <li>●若い女性の社会参加を図る。</li> <li>●団体リーダーの養成と活用を図る。</li> <li>●地域活動への参加に向けて意見交換の機会をつくる。</li> </ul>
	連携・ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> <li>●各青年組織の交流を奨励し、連携・ネットワーク化を促進する。</li> </ul>

備 考